

国語総合の傾向

はじめに

医療の専門家を目指して当大学への入学を希望されている皆さんは、いずれ医療専門職となって社会の様々な問題を抱えながら生活している人々とうまくコミュニケーションをとることが必要となります。そのためには、現代社会における人々のあり方を論じた文章を数多く読んで内容を理解し、それに対する自分の考えを持つことが大切です。筆記試験では、内容の読解までにとどめていますが、日本語を正確に読み、正確に書くことは大学での学習のスタートラインです。

傾 向

- 1 マークシート方式による選択式です。
- 2 現代文2題で、その内訳は評論2題または評論・随筆各1題です。

1問目の評論文の問題は科学・歴史・心理・哲学・文化など幅広いジャンルから出題される、やや硬質な文章で、内容把握が中心です。2問目の評論文または随筆文の問題は1問目よりやや柔らかめの文章で、内容把握のほか、さまざまな国語の知識が問われます。いずれの問題も高校の教科書レベルの文章が出題されます。
- 3 漢字の読み書きは必須で、語意、四字熟語・ことわざなどの知識問題も頻出しています。また読解問題は空欄補充、欠文補充、指示内容、内容説明、理由説明などの部分読解問題と全体読解問題（筆者の主張、内容一致など）に分かれます。
- 4 たとえ易しい印象を与える評論文であっても、受験生には馴染みのない評論キーワードが文中では使用されていますから、市販の入試問題集を解いたり、新聞や新書などを読んだりして、論理的、抽象的な文章に慣れておく必要があります。
- 5 評論文を読むための参考文献や、試験に際しての問題の取り組み方など、試験対策についてはオープンキャンパスの対策講座で詳しく解説します。
- 6 センター試験と比べると、本文の分量も少なく、選択肢の長さも短いので、はるかに取り組みやすい問題です。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私はたえず何ごとかをなしている。しかし、私が何ごとかをなすとはどういうことなのか？

歩くという例を考えてみよう。私が歩く。そのとき私は「歩こう」という意志をもって、この歩行なる行為を自分で遂行しているように思える。(1)

歩く動作は人体の全身にかかわっている。人体には二〇〇以上の骨、一〇〇以上の関節、約四〇〇の骨格筋がある。それらがきわめて繊細な連携プレーを行うことによってはじめて歩く動作が可能になるわけだが、私はそうした複雑な人体の機構を自分で動かそうと思って動かしているわけではない。

実際、あまりに複雑な人体の機構を、意識という一つの司令塔からコントロールすることは不可能であり、身体の一部は意識からの指令を待たず、各部で自動的に連絡をとりあつて複雑な連携をこなしていることが知られている。

(1) 歩く動作が可能になったとしても、それだけで歩くという行為が可能になるわけではない。歩くためには歩くことを可能にする外的な条件があらかじめ整備されていないといけない。足の接する場所は水平に近く、ある程度の硬度をもち、適度に固定されていないなければならない。急な斜面、グニャグニャしたところ、グラグラしたところは歩けない。

また、^aゲンミツに考えれば、歩くときに足下でまったく同じ条件が繰り返されるといふことはありえないのであって、踏み出された一步一步が踏みしめる場所は一つ一つ違う。したがって、歩行する **A** は、毎度毎度異なる外的条件にも対応しなければならぬ。(2)

さて、こうして歩く動作と歩く行為が可能になったとして、では、それが私の思った通りに遂行されているのかというと、これもまた疑わしい。

歩くといってもさまざまな歩き方がある。私が自分で特定の歩き方を意識して選んだのかというと必ずしもそうではない。私は生まれてこの方、特定の歩き方を習得してきたのであり、ある意味では、その仕方ですべて歩くことを強いられている。

たとえば、明治初期に近代的な軍隊がつくられた際、それまで農民だった兵士たちは西洋式の行進がうまくできなかったことがよく知られている。彼らにとって西洋式の歩き方は自然ではなかった。そもそも彼らは自分たちがどのように歩いているのかなど、意識したこともなかっただろう。

私は行為しているも、自分で自分の身体をどう動かしているのか、明瞭に意識しているわけではない。したがって、どう動かすのかを、明瞭な意識をもって選んでいるわけではない。

たとえば子どもは、駆けることはできてもジョギングができないことがある。「歩く」と「駆ける」の間にあるジョギングの **B** は、ずいぶん

と後になって習得されるものだ。しかしひとたびジョギングができるようになって、われわれはそれが習得されたものであることを忘れてしまう。

⁽²⁾ 歩くという行為についても同じことが言えよう。(3)

さらに、「歩こう」という意志が行為の最初にあるかどうかも疑わしい。

現代の脳神経科学が解き明かしたところによれば、脳内で行為を行うための運動プログラムがつくられた後で、その行為を行おうとする意志が意識のなかに現れてくるのだという。

脳内では、意志という主観的な経験に先立ち、無意識のうちに運動プログラムが進行している。しかもそれだけではない。意志の現れが感じられた後、脳内ではこの運動プログラムに従うとしたら身体や **C** はどう動くのが「内部モデル」に基づいてシミュレートされるのだが、その結果としてわれわれは、実際にはまだ身体は動いていないにもかかわらず、意志に沿って自分の身体が動いたかのような感覚を得る。

^(注) 熊谷晋一郎の表現を借りれば、「私たちは、目を覚ましているときにも内部モデルという夢の世界に住んでいる」。われわれは脳内でのシミュレーションに過ぎないものに、⁽³⁾ 自分と世界の () を感じながら行為しているということだ。

私が何ごとかをなすとき、私は **D** をもって自分でその行為を遂行しているように感じる。また人が何ごとかをなすのを見ると、私はその人が意志をもって自分でその行為を遂行しているように感じる。しかし、「自分で」がいったい何を指しているのかを決定するのは容易ではないし、そこで想定されているような「意志」を行為のゲン **b** センと考えるのも難しい。

われわれはしばしば行為を「意志の実現」と見なす。しかし、以上の短い **c** ケントウだけでも、そのような見方が少しも妥当でないことが分かる。

これだけ多くの条件によって規定されているのだとすれば、行為はむしろ、⁽⁴⁾ それら諸条件のもとでの諸関係の実現と見なされるべきだろう。(4)

⁽⁵⁾ このことは心のなかで起こることを例にするとより分かりやすくなるかもしれない。たとえば、「想いに耽る」といった事態はどうだろうか？

私が想いに耽るのだとすれば、想いに耽るのはたしかに私だ。だが、想いに耽るというプロセスがスタートするその最初に私の意志があるとは思えない。私は「想いに耽るぞ」と思ってそうするわけではない。何らかの条件が満たされることで、そのプロセスがスタートするのである。

また、想いに耽るとき、私は心のなかでさまざまな想念が自動的に展開したり、過去の場面が回想として現れ出たりするのを感じるが、そのプロセスは私の思い通りにはならない。意志は想いに耽るプロセスを操作していない。

心のなかで起こることが直接に **E** と関係する場合を考えてみると、事態はもっと分かりやすくなる。謝罪を求められた場合を考えてみよう。(5)

私が何らかの過ちを **d** オカシ、相手を傷つけたり、周りに損害を及ぼしたりしたために、他者が謝罪を求める。その場合、私が「自分の過ちを反省

して、相手に謝るぞ」と意志しただけではダメである。心のなかに「私が悪かった……」という気持ちが現れてこなければ、他者の要求に応えることはできない。そしてそうした気持ちが現れるためには、心のなかで諸々の想念をめぐる実さまさまな条件が満たされねばならないだろう。

逆の立場に立って考えてみればよい。相手に謝罪を求めたとき、その相手がどれだけ「私が悪かった」「すみません」「謝ります」「反省しています」と述べても、それだけで相手を許すことはできない。謝罪する気持ちが相手の心のなかに現れていなければ、それを謝罪として受け入れることはできない。そうした気持ちの現れを感じたとき、私は自分のなかに「許そう」という気持ちの現れを感じる。

もちろん、相手の心を覗くことはできない。だから、相手が偽ったり、それに騙されたりといったことも当然考えられる。だが、それは問題ではない。重要なのは、謝罪が求められたとき、⁽⁶⁾ 実際に求められているのは何かということである。

(國分功一郎『中動態の世界——意志と責任の考古学』医学書院による)

(注1) 熊谷晋一郎「一九七七年」。日本の医師、科学者。

問(一) 傍線部 a、b、c、d のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a || 1

b || 2

c || 3

d || 4

a ゲンミツ

1 ゲンソウを抱く。

2 川のスイゲンを探す。

3 ゲンカクな父親。

4 ゲンマイを炊く。

5 レイゲンあらたかな山。

b ゲンセン

1 販売を独センする。

2 大衆をセン動する。

3 球団のセン属コーチ。

4 テレビでセン伝する。

5 温センに浸かって温まる。

c ケントウ

- 1 ケン悪な雰囲気。
- 2 社会に貢ケンする。
- 3 車両を点ケンする。
- 4 真ケンな顔つき。
- 5 小遣いをケン約する。

d オカシ

- 1 ボウハン活動をする。
- 2 ハンセンが入港する。
- 3 コハンを散策する。
- 4 ハンザツな手続き。
- 5 ハンチョウに指名される。

問(二)

空欄 A

E

を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んでは

いけない。)

- | | | | | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 動作 | A | 5 | B | 6 | C | 7 | D | 8 | E | 9 |
| 2 意志 | | | | | | | | | | |
| 3 身体 | | | | | | | | | | |
| 4 他者 | | | | | | | | | | |
| 5 快感 | | | | | | | | | | |
| 6 世界 | | | | | | | | | | |

問(三)

傍線部(1)「歩く動作が可能になったとしても、それだけで歩くという行為が可能になるわけではない」とありますが、「動作」と「行為」を区別する基準は何ですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- 1 「動作」が身体の自動的な動きをいうのに対して、「行為」は意志による身体のコントロールをいう。
- 2 「動作」が身体を動かすことの可能性をいうのに対して、「行為」は実際に身体を動かすことをいう。
- 3 「動作」が身体の物理的な動きをいうのに対して、「行為」は身体を動かそうとする意識の働きをいう。
- 4 「動作」が身体の各部位の動きをいうのに対して、「行為」は外界に対する身体の間わりをいう。
- 5 「動作」が身体を使った動き全般をいうのに対して、「行為」は身体を使った特定の動きをいう。

問(四) 傍線部(2)「歩くという行為についても同じことが言えよう」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- 1 私たちは通常、歩き方を習い覚えた後は歩くことを意識することはないということ
- 2 歩くという行為はごく単純な行為なので、私たちは誰かに歩き方を習うことはできないということ
- 3 歩くには人体の複雑な機構を動かす必要があるが、私たちはそれを容易に習得できるということ
- 4 私たちは歩き方を習得してしまつと、自分の意志通りに身体を動かすことができるということ
- 5 歩くといっても様々な歩き方があり、私たちは自分に合った歩き方を習得するものだということ

問(五) 傍線部(3)「自分と世界の()を感じながら行為している」の空欄()を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

- 1 ジレンマ
- 2 カオス
- 3 リアリティ
- 4 パラドクス
- 5 フィクション

問(六) 傍線部(4)「それら諸条件」に該当しないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 13

- 1 複雑な人体の機構を制御するだけでなく、行為に関わる外的条件にも対応しなければならないこと
- 2 ある行為を意志する以前に、その行為の運動プログラムが無意識のうちに進行していること
- 3 ある行為は、それを行うために習得した特定の行為の仕方に基づいてのみ遂行されること
- 4 行為にかかわる骨や筋肉や関節などが、自動的に連絡をとりあって複雑な連携をこなしていること
- 5 意志によって実際に行為する以前に、意志に沿って自分の身体が動いたかのような感覚があること

問(七) 傍線部(5)「このことは心のなかで起こることを例にするとより分かりやすくなるかもしれない」とありますが、筆者はこれについてどのように説明していますか。ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 14

- 1 想念や回想のプロセスは私の思い通りにならないが、その中味は自分で決定できる。
- 2 想念や回想は明確な始点と終点がなく、脈絡もない、曖昧でとりとめのないものだ。

- 3 想念や回想は時として私の意志に反して相手を傷つけたり損害を与えたりするものだ。
- 4 想念や回想がスタートするには、私の意志に加えて何らかの外的条件が必要である。
- 5 想念や回想の始点と終点、その過程は意志によってコントロールすることができない。

問(八)

傍線部(6)「実際に求められているのは何か」とありますが、「何か」の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- 1 相手を許そうという寛大な心
- 2 謝罪する気持ちを本当に持っていること
- 3 被害者の立場に立って考えること
- 4 謝罪しようという明確な意志
- 5 謝罪を表現する適切な言葉

問(九)

本文から次の文が脱落しています。本文中の(1)～(5)のどこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

しかし、事はそう単純ではない。

- 1 (1)
- 2 (2)
- 3 (3)
- 4 (4)
- 5 (5)

問(十)

本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 17

- 1 私たちは自分の過ちのために被害を受けた相手に謝るときに、言葉を尽くして謝らないかぎり、相手に謝罪の気持ちを伝えることはできない。
- 2 私たちは自分がそう思っているほど、自分の意志でコントロールしながら何かを思念したり想起したり、あるいは何かを実行したりしているわけではない。

3 歩くというような単純な行為でさえも意志するだけではだめで、複雑な人体の機構が意志通りに連携して動いてくれないければ、行うことはできない。

4 あまりに複雑な人体の機構を意識という一つの司令塔からコントロールすることは困難だが、そこに強い意志が加われば不可能なことではない。

5 私たちは自分の身体でさえどう動かしているのか明瞭に意識できないのだから、他者の身体を自分の意志通りに動かすことはなおさらできない。

【一】 次の文章はノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹によって、一九四六年に書かれたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

色々な種類の美しさに対する感受性を持っているということは、人間に生れてきたものに取って最も大きな^甲果報の一つであろう。人間を他の動物から区別する特徴として理性が先ず第一にあげられるのが普通であるが、美に対する感受性というようなものも、——他の高等動物にも全然ないとはいえないかも知れぬが、少なくとも人間の場合にのみ著しい^a発達を遂げているという意味で——人間の一つの重要な特徴であることは確かである。美を感じこれを愛好するということはしかし、美しくないもの、醜^cいものをも感じ、これを嫌悪するということと、表裏一体の関係にある。(イ) 人間の周囲に美よりも醜が多い場合には、人間を幸福にしてくれる筈^{はず}であった感受性が、かえって不幸の元になる。殊^{こと}に終戦後の荒廃した国土に住む私ども日本人は、意識的に或は無意識的に美醜に対する感受性を鈍^dらすことに努めずには、生きてゆかれないようにさえ思われる。しかしその反面では、僅^{わずか}かに残った美しさを見つけ出し、これを大切にするという気持も強くなってくるのである。私は美学者でないから、深く考えて見たことはないが、いつも思うことは、⁽¹⁾ 私どもの感ずる美というものは大抵^{たいてい}著しく相対的であり、浮動するものであるということである。⁽²⁾ 「鶏群^{けいぐん}の一鶴^{いっかく}」という譬^{たと}えの通り、周囲とのコントラストによって、あるものの美しさが特に強く感ぜられるばかりではない。初めの中^{うち}は何も感じないか、或はむしろ醜いと感じたものが、見慣れるに従って、いつしか新しい美がその中から見つけ出され、(ロ) 今まで見なれていて、美しいと思っていたものに対する感受性が減退するか、或は逆に古くさく醜くさえ感ずることが珍しくない。特に近代における科学文明の急激な進展に伴^eって、新しい機械が次々と発明されてゆく結果として、私どもの美的評価もその時々で変化することを免^fかれないのである。それなら美しいものは永久に変らない標準はないのかといえ、勿論^{もちろん}そうではない。(ハ) 昔から名所といわれている場所は、今日の私どもにもやはり美しい景色だと感ぜられる。ギリシャ彫刻や、東洋の古い仏像の中のすぐれたものは、現代は勿論のこと、ずっと後世までもその美的価値を失わないであろう。それにしても平生高度の客観性と実証性を持った自然科学的真理を探究している私ども自然科学者には、美というようなつかみ所のないものは、実に苦手である。⁽³⁾ なるべくならば「美」の方は敬遠して、「真」だけですませたいのである。

所が実は真と美とは容易に切離^{きりわ}れすることができない位に、複雑にからみあっているのである。このことは美を当の相手とする芸術の側では極めて明白な形で現われている。音楽その他特殊な場合を除けば、⁽⁴⁾ いつでも「()」ということが問題となるのを見てもわかる。これにくらべると科学の側では、美しさを正面から問題にすることはないように見える。例えば一つの理論の体系があるとすると、その推論に論理的ないし数学的なあやまりがなく、^g 且つその結果が経験と合致するならば、それで申し分はない筈である。(ニ) 科学者達は——口でいったり紙に書いたりしないかも

知れないが、少なくとも心の中では意識的或は無意識的に、というよりもむしろ本能的に——その理論体系に対する何等かの美的な評価をしているのである。従って同様な結論を生み出す幾つかの理論があれば、いつの間にかその中で一番エレガントだと感ぜられるものが選び出され、後々まで残ることが珍しくない。もつと極端にいえば、それが科学者に取って如何にも美しいと感ぜられるが故に、真理であると信ぜられやすい傾向さえあるのである。例えば相対性原理の如きも、その最初の段階、即ち特殊相対性原理に関する限りは、マイケルソンの実験を含む多くの実験のテストに堪え得たことが、科学者の信用を博する主な理由であったことは確かである。しかしこの場合といえども、時間と空間とを一緒にした四次元世界に結晶した自然法則の超感覚的な対称美に動かされない物理学者はないであろう。(ホ)一般相対性原理になると、日常経験の世界から更に遠ざかると共に、実験的根拠は前の場合よりも少なくなる反面において、私どもの生きていく小世界を包んで時間空間のはてまで広がる全宇宙の構造を表現する理論体系の驚くべき均整の美に驚歎せざるを得ないのである。ここまできると、人々は「真なるが故に美」であるよりもむしろ「美なるが故に真」であると考えさせられるのである。相対性原理と並んで、更にそれよりも近代性の著しい量子論やその発展したものである(注3)量子力学の場合には、事情は大分違ってくる。相対性理論をも含む広義の古典物理学に見出された「古典的」な美しさは、自然現象の中にある不連続的な要素の発見によつて、一旦破壊されてしまった。そして連続不連続の矛盾を統一する合理的な理論体系である量子力学が完成するまでには、二十数年に互る多数の科学者の絶えざる努力が必要であった。今日私どもはこの新しい理論体系の中に、古典論に勝るとも劣らない美しさを充分感得し得るのであるが、それは極めて豊富な実証的事実によつて裏づけられているが故に——いいかえれば真実であることが確かであるが故に——その美しさが特に強く印象されるのである。反発から同感への変化に伴う美の新鮮さが、まだ失われていないのである。しかし年月が経過するに従つて、人々は量子力学を初めから出来上つた理論体系として——それが事実からの強要によつて人間がいや応なしに構成せざるを得なかつたものであることを忘れてしまつて——古典的諸理論と同じような不動の均整美を保有するものとして受取るようになるであろう。それは丁度私どもが様々な機械のいわゆる機能美を、今日では極めて自然に受入れることができるのと同様でもあろう。

(7) 以上述べた如く、物理学の基礎理論のように、人間の感覚から随分遠く隔たつていて、そこには真か偽かという以外に、美か醜かというような問題が、到底ありそうもない領域においてさえ、研究者自身は実はある種の美意識によつて強く影響されているのである。そして真と美とが一致した時に、研究者は最も大きな喜びを感ずるのである。そればかりではない。研究の途上における動的な美の意識が、研究の完成と共に、漸次静的な美の意識へと変つてゆく経過も、私どもの日常的世界における美の感覚の変化と同型であることが認められる。それは機能美から古典美への変化であるともいえよう。生命の美から結晶の美しさへの移行であるともいえよう。より人間的なものから、より自然的なものへの還元であるともいえるかも知れぬ。蝶から花へ、花から雪へ、地上の雪から天上の月へと遠のいてゆく過程と比較できるかも知れない。

(注1) 特殊相対性原理 \parallel アインシュタイン(一八七九 \sim 一九五五年)が提唱した物理学理論。後続の「一般相対性原理(\parallel 一般相対性理論)」もアインシュタインが提唱した。

(注2) マイケルソン \parallel 一八五二 \sim 一九三一年。ドイツ生まれのアメリカの物理学者。

(注3) 量子力学 \parallel 素粒子、原子、分子などの微視的対象を扱う物理学の理論で、一般相対性理論と並ぶ現代物理学の根幹を成している。

問(一) 傍線部 a \sim j の漢字の読みが誤っているものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。 i \parallel 18 ii \parallel 19

i 1 a 著(めざま) 2 b 遂(と) 3 c 醜(みにく)

4 d 鈍(にぶ) 5 e 伴(ともな)

ii 1 f 免(まぬ) 2 g 且(か) 3 h 堪(た)

4 i 勝(すぐ) 5 j 隔(へだ)

問(二) 空欄(イ) (ホ) を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけません。)

1 しかし 2 従って 3 即ち 4 かえって 5 例えば 6 更に

イ \parallel 20

ロ \parallel 21

ハ \parallel 22

ニ \parallel 23

ホ \parallel 24

問(三) 傍線部甲「果報」、乙「漸次」の意味としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

甲 \parallel 25 乙 \parallel 26

甲「果報」 1 象徴 2 幸運 3 利得 4 性質 5 功績

乙「漸次」 1 次第に 2 確実に 3 順番に 4 ついに 5 しばらく

問(四) 傍線部(1)「私どもの感ずる美というものは大抵著しく相対的であり」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 27

- 1 何を美と感じるか感じないかは、その時々々の状況や心理状態によって変わりうるということ
- 2 わずかに残った美しさを見つけ出せるかどうかは、美学者たちの感受性次第だということ
- 3 美しいものを愛好し、醜いものを嫌悪するのは、人間の一つの重要な特徴であるということ
- 4 あるものを美しいと感じるか醜いと感じるかは、人の感受性の強弱によって異なるということ
- 5 永久に美的価値を失わないものもあれば、その時々で美的評価が変わるものもあるということ

問(五) 傍線部(2)「けいぐん鶏群のいつかく一鶴」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

28

- 1 有力者や権威のある者が多くの人の意見や議論を押さえつけること
- 2 どんな集団の中にも自分だけ目立とうとする者が一人はいること
- 3 才能や実力のある者は軽々しくそれを見つけたりしないこと
- 4 大勢の平凡な人間の中にすぐれた人物が一人混じっていること
- 5 集団というものは異質な者がいると、それを排除しようとする事

問(六) 傍線部(3)「なるべくならば『美』の方は敬遠して、『真』だけですませたい」と筆者が言うのはなぜですか。その理由としてふさわしいものを、

次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

29

- 1 「美」は、美学者が専門的に扱う分野であり、「真」を専門とする科学者は素人にすぎないから。
- 2 「美」は、「真」と容易に切り離すことができないくらいに複雑にからみあっているから。
- 3 「美」は「真」よりも価値としてすぐれており、自然科学者の手に負えるようなものではないから。
- 4 「美」には美的価値はあっても、「真」のような普遍的な価値を見出すことはできないから。
- 5 「美」は、「真」のように自己と切り離して客観的に捉えることが難しいから。

問(七) 傍線部(4)「いつでも」()「いつでもいつでも」()「いつでもいつでも」()「いつでもいつでも」()「いつでもいつでも」()を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つ選び、その番号

をマークしなさい。

30

- 1 崇高
- 2 感動
- 3 個性
- 4 才能
- 5 写実

問(八) 傍線部(5)「驚歎せざるを得ない」とほぼ同じ意味を表す表現を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

31

- 1 驚歎するのを抑えがたい
- 2 驚歎しないで済ませたい
- 3 驚歎することはできない
- 4 驚歎するのは自由である
- 5 驚歎しないわけではない

問(九) 傍線部(6)「事情は大分違ってくる」の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

32

- 1 古典物理学については、多くの人々がその理論を美しいと感じるが、量子力学に対しては、反発を覚える人が多く、美しいと感じる人は少ないということ
- 2 古典物理学では、真理性とは切り離して美を感じ取ることができるが、量子力学では、真理と美は一体となっているということ
- 3 古典物理学では、理論の美しさが真理性の条件であるように思われるが、量子力学では、理論が真理であると実証された後に、美しいと感じられるようになったということ
- 4 以前は、美しく整った古典物理学の理論のみが真理であると見なされていたが、今では、およそ美しいとは言えない量子力学の理論も真理であると考えられているということ
- 5 古典物理学は、均整のとれたエレガントな美しさを備えているが、量子力学の美しさは、連続不連続の矛盾を統一する力強いものであるということ

問(十) 傍線部(7)「以上述べた如く」とありますが、その内容としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

33

- 1 自然科学の理論はそれが真であればあるほど強く美を感じさせられる。

問(±)

- 2 科学理論の美しさはその推論の正しさよりも経験との合致に基づいている。
 - 3 新しい理論である量子力学は古典的理論と同じく均整の美を備えている。
 - 4 機械の機能美が受け入れられたように、私たちの美的評価は変化する。
 - 5 真と美の間には因果関係があるのではと思わせるほど密接な関係がある。
- 1 本文の表題としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。
- | | | | | |
|---------|---------|---------|----------|-----------|
| 1 古典と現代 | 2 美醜の感覚 | 3 科学と技術 | 4 真と美の一致 | 5 科学理論の発展 |
|---------|---------|---------|----------|-----------|

34

設問は以上です。